

1. 課題名

モデル生物のゲノム・表現型多様性の統制的データ解析システムの開発

2. 研究者名

城石 俊彦 (国立遺伝学研究所)

3. 研究成果の概要

(1) 二研究所間で以下の打合わせを行い、融合研究の実施内容について協議した。

全体会議：2004年12月27日於遺伝学研(遺伝研2名、統数研6名参加)

融合研究全体の基本方針を協議した。マウス・イネの表現型、遺伝子間相互作用の数理解析法について具体的な研究方針の検討を行った。

個別会議：2005年1月26日於統計数理研(統数研6名、遺伝研2名参加)

イネのマイクロアレイによる遺伝子発現解析と生殖的隔離障壁の研究について協議した。

個別会議：2005年3月3日於統数研(統数研2名、遺伝研2名参加)

マウス行動関連表現型(特に社会行動)の数理解析に関して協議した。

以上の打合わせにより、融合研究の具体的方針が固まった。

(2) マウス形態多様性の数理解析を目的として、国立遺伝学研究所においてマウス下顎骨の骨格標本を野生マウス由来系統から作製した。また、これらの標本を使って、統計数理研究所が開発したP型フーリエ記述子を用いた形態の数理的計測を行った。さらに主成分分析によって、形態多様性に係わる成分解析を行った。